

令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立立川高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 事務局長：総務広報部主任 企画室室長 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務部主任、生徒部主任、進路部主任、総務広報部主任、探究部主任 計8名
- (4) 協議委員の構成
有識者（大学教授）、PTA会長、元PTA会長、同窓会理事長、同窓会事務局長、近隣中学校長、立川市教育委員会主任指導主事、近隣予備学校アドバイザー、近隣自治会代表 計9名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
第1回 令和5年5月6日（土） 内部委員8名 協議委員7名
学校長挨拶、委嘱状交付、本校の現状と課題について、事務連絡
第2回 令和5年9月30日（土） 内部委員8名 協議委員8名
学校長挨拶、評価委員会報告、本校の現状と課題について、質疑応答・意見交換、事務連絡
第3回 令和5年12月10日（土） 内部委員8名 協議委員9名
学校長挨拶、評価委員会報告、本校の現状と課題について、質疑応答・意見交換、事務連絡
- (2) 評価委員会の開催日時、出席、内容、その他
第1回 令和5年9月30日（土） 内部委員2名 協議委員2名
学校評価アンケート実施項目の確認、アンケート項目の確認、回収率向上に向けた取り組み
第2回 令和5年12月9日（土） 内部委員2名 協議委員2名
アンケート集計結果の分析、回収率向上に向けた取り組みとその成果課題のとりまとめ

3 学校運営連絡協議会による学校評価

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施した。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規範
令和5年9月～11月に実施
・全校生徒 対象：944人 回収838人（昨年回収917人）
・保護者全員 対象：944人 回収708人（昨年回収744人）
・教職員 対象：64人 回収64人（昨年回収66人）
・中学校教員（自由提出） 回収12人（昨年回収11人）
・南親会（自由提出） 回収19人（昨年回収19人）
・紫芳会（自由提出） 回収14人（昨年回収13人）
Classiと紙での回収を併用しアンケートを行った。
- (3) 主な評価項目
・学校行事は充実している。
・立川高校の教育には特色ある取組がある。
・進路指導について相談が充実している。
・立川高校に入学して良かった。
・教員のライフ・ワークバランス。
- (4) 評価結果の概要
・立川高校の教育活動への評価は生徒・保護者共に高いが、自由意見での課題指摘も多かった。
・生徒、保護者共に、立川高校に入学して良かったと思う割合が非常に高い。
・コロナ感染症が2類から5類に引き下げられ、コロナ禍前の活動に戻り、生徒・保護者共に部活動や学校行事についてポイントの上昇がみられた。
・校舎の設備（トイレ）や清掃など美化に対して改善を求める生徒等の割合が昨年に引き続き高い。
- (5) 評価結果の分析・考察
今年度も、中学校、地域、同窓会（紫芳会）のアンケート実施に当たり、学校案内を配布するとともに、本校ホームページでも情報発信に努めているところである。しかし、「立川高校のWeb等によって、立川高校の情報は十分に発信されている。」の質問に対し中学校の回答に「よく判らない」との回答があった。引き続き、本校ホームページでの情報発信に努めていく。
地域からのアンケートの自由意見に、昨年度に引き続き、生徒の登下校に関する意見が出され

た。また、ホームページに関しては情報が分かりにくいという意見があった。今後も、引き続き、地域の声に真摯に耳を傾け、企画室及び教員で協力して対応する必要がある。

紫芳会からのアンケートの自由意見には、トイレ等の老朽化による新たな建て替えや史料室の設置の検討等の意見をいただいた。今後も、母校立川高校に対する御意見に、真摯に耳を傾け、より良い教育活動の実現のため、職員全体で対応する必要がある。

今年度も、「設問⑩ 教職員の『ライフ・ワークバランス推進プラン』を東京都が推進している事を知っていますか。」について、保護者、地域、紫芳会に聞き取りをした。保護者は約半数以上の方が「知っている」もしくは「聞いたことがある」と回答しているが、地域、紫芳会は半数以下であった。

教員の回答で、「そう思う」「ややそう思う」の合計は、今年度は前年より少し上回っている。本校は、世界に羽ばたく人材を社会に送りだすべく多様な教育活動が求められているとともに、昨年度創造理数科が新たに設置され、学科に関する業務が増加している。教員の自由意見でも、業務が多いとの意見もあり、多忙にならざるを得ない現状がある。普通科と創造理数科を併設している学校として、持続可能な組織体制を検討するとともに、学校が教職員のライフ・ワークバランスを考え、一人一人の職員が心身ともに健康に仕事が行える環境を整えることを検討する必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・アンケート結果から、生徒の立川高校に対する満足度が高いことが分かり、将来の進路実績にも反映するであろうことが予想される。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・生徒、保護者の多様なニーズにこたえることの難しさが、明らかになった。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ・学校運営はおおむね評価されているが、生徒に寄り添った対応を引き続き行っていく。
- ・進学指導重点校、SSH、理数科開設など立川高校を進化させる取組を強化していく。
- ・トイレの改修などを継続的に要望し、よりよい環境整備をしていく。
- ・挨拶の励行など、立高生の伝統を引き継ぐような生活習慣を継承していく。
- ・一人1台端末の活用・充実とともに、本物体験の充実を行う。

(2) 学習指導

- ・学習課題の扱いについて、指摘があった。今年度は課題の見える化を行い量から質への転換を図るとともに、計画的な指導を行った。

(3) 特別活動

- ・体育祭、合唱祭、臨海教室、文化祭、演劇コンクールを実施した。次年度以降の学校行事を円滑に運営していくため、生徒及び教員の引継ぎを十分行う必要がある。

(3) 生活指導

- ・下校時の指導は、生徒部を中心に実施した。
- ・本校は、全日制と定時制の併設校であるので、両者共に気持ちよく学校生活を送ることができるように指導をしている。

(4) 進路指導

- ・進学指導重点校としてふさわしい結果が残せるように、さらに上を目指す指導をする。
- ・普通科及び理数科の併設校として、進路希望実現のため、生徒の能力の伸長を目指す指導が必要である。

(5) 健康・安全

- ・学力の高い生徒が多く入学すると共に、メンタル面のケアが必要な生徒も増えた。スクールカウンセラーや養護教諭、学年・担任が連携をして対処していく。

(7) 学校運営連絡協議会の提言

- ① 施設・設備の改善 特にトイレの改修
- ② 進路指導の充実に向けての対策
- ③ 自由意見にあった様々な意見に耳を傾け、実施可能なことから実施してほしい。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 9名

(2) 学校が良くなったと考える協議委員の人数

そう思う	多少そう 思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	分からない	無回答
7	2					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び結果
実施せず

8 その他
特になし